

解決と組織拡大の年に！！

—国労長野地本2010年旗開き—



発行所
国鉄労働組合長野地方本部
長野市中御所3-2-22
発行者 太田克彦
編集者 清水孝次

2010年2月15日
第1466号

●国労加入を 大胆に訴えよう！



新年にあたっての決意を述べる太田委員長

地方本部は、1月8日、長野市のホテルメトロポリタン長野で2010年旗開きを開催した。来賓、各級機関代表者など80名が参加して、新たな年へ踏み出すスタートとして団結を深め合った。
今年も大きな問題に虎となって立ち向かっていこう。注化など大きな問題に虎となって立ち向かっていこう。

諏訪浩一書記長の司会で始まり、太田克彦委員長のあいさつ、来賓を代表し、宮下洋氏(県労組会議副議長)、山口わか子氏(社民党県連合代表)、中野さなえ氏(日本共産党、高野苗実

氏(国労東日本本部委員長)からあいさつを頂いた。宮下氏は「我々、労働者・国民を取り巻く状況は、一向に明るい兆しが見えてこない。これは、労働問題に

限らず、私たち県労組会議の取り組みとして、今後さらにいろいろな課題が出てくると思っている。こういう厳しい状況の中だが、県労組会議も各地区の労組会議とそこに結集する労働者と連帯をより一層強めて問題に対応していく。そういう意味で国労の皆さんにも更なるご協力をお願いしたい。

また、一〇四七名の不採用問題について、国労支援県共闘会議として、国労闘争はすべての労働者の権利闘争という位置付けの下、早期の解決を求めて、国労闘争団と連携し支援活動を引き続き強化していくことを、この間確認してきた」と述べた。

(高野東日本本部委員長、太田委員長のあいさつは別掲)

懇親会は、昨年の選挙で初当選した中村博道木曾町議会議員の乾杯で始まり、参加者全員の団結を深めた。最後に、新規加入の坪井君、復帰者の長田さん、各

の名の下で合理化が進められてきました。設備メンテナンスの合理化事業が実施をされて7年目を迎えています。そして検修の外注化問題です。解明要求の2回目の交渉の準備を進めています。これまでの合理化の中で、仕事の在り方が変えられ、そうした施策の中で仕事の在り方がまた変えられようとしてきている中であって、職場における労働条件の改善などについて努力していかなければならない年であると思います。

三点目には、国労の将来を展望するにあたって、組織拡大というのは重要な課題であると思います。昨年の定期大会以降、7名の拡大ということになりました。組織拡大を「点から線へ線から面へ」ということで提起をし、取り組みを進めてきましたが、毎月拡大があることから言えば、点から線になりつつあるであろうと思います。この組織拡大の流れを何としてもこの年に今後の組織拡大の流れとして作っていかねばならないと思います。

国労東日本本部 高野苗実委員長あいさつ



私たち国労にとってこの2010年は非常に重要な年です。一点目は、JR不採用問題を何とかして解決をする年にしなければなりません。2.16集会を解決への集会ということで位置づけて準備を進めています。本部もこの2.16集会を何とかして解決の報告集会にしたいということで奮闘しています。いまそうした決意を持って政治対策を行なっているところです。二点目には、効率化施策の問題。これまで規制緩和の流れの中で、JR東日本も例外ではなく効率化

支部の力強い決意表明が行われ、鉄道退職者の会、小林袈裟文会長の一本締めで散会した。

委員長あいさつ



昨年は、不況の中、政権交代という大きな動きがあり、鳩山首相(当時幹事長)は、昨年2月16日の集会で、24年を超えないことを明言された方です。11月26日の集会でも多くの仲間が集まり、自民党を除いた各党に「御出席を頂いた中で「24年を超えない」「解決をする」と発言をされたことは、皆さんもご承知だろうと思います。

12月に横浜人活訴訟の不当判決が出されました。個人的には、裁判所は判決を逃げた、判決を避けたと思っ

2年連続で新採加入、3名の復帰者を迎えることが出来ましたが、組織の減少は続いています。国鉄闘争、組織拡大はもろいですが、会社から大きな効率化・合理化・見直し施策が提案されています。今年も、まず「不採用問題の解決」、そして「組織拡大」、「職場に労働運動」を地本一丸となつて闘っていきたく思います。

左から 坪井君 長田さん
神津長野運輸分会長



JR貨物会社線区拡大を提案 安全輸送に逆行？

塩尻機関区の稲沢乗り入れのための線見が行われている。

貨物会社は「NS2011において安全安定輸送と運用効率の両立を目指して

1線1区による輸送障害対応体制見直しを目的とした乗務線区の見直しを実施する。これに伴い実施対象区所においてハンドル訓練を実施する」と説明する。

乗務区間拡大には、東海支社全体の要員不足解消がある。交番作成規程の継続乗務距離220⁺、継続乗務時間6時間(深夜帯2時間を含む場合4時間30分)



の条件をクリアする事により稲沢までの乗務が可能だ。さらに、稲沢機関区の運転士が塩尻まで乗務している事実がある。

提案された線見行路は、B31仕業の勤務終了時刻が21時58分。翌日B32仕業の勤務開始時刻が10時40分。塩尻機関区の運転士30名のうち20名が特急を利用しての遠距離通勤者であるため帰宅が出来ず、退勤から出勤まで職場で休養を取らざるを得ない。

稲沢への乗り入れに伴う問題点を挙げると、①ロングランによる休養不足。線区拡大による熟知度の拡散。②稲沢へは月に1〜2回程

度となる線見期間を設けても忘れてしまう恐れがある。これはほんの一例であり、他にも問題点が挙がっていることは必ずだ。会社が繰り返す「安全安定輸送」から遠ざかる要素ばかりである。

12月21日、東日本本部は「塩尻機関区稲沢乗り入れに関する申入れ」を行い、12月24日、貨物関東支社と団体交渉を開催した。

団体交渉経過

1. 「柔軟な運用体制」と「輸送障害対応体制を見直す」としているが、どのような体制とするのか。
【回答】1線1区による制限を解消することにより、運用作成上の柔軟性と輸送障害時の対応に臨機応変性を確保できるようにする考えである。
2. 安全輸送と運用効率の両立を目指しているが、より柔軟な運転士運用体制により運転上の労働条件はどのように維持・改善され、結果として安全安定輸送が確保されるのか明確にすること。
【回答】直行化により、対応列車の遅延状況のため乗務員が未着による列車の抑止が防げるほか、輸送障害の早期復旧へ向けた柔軟性が増す効果が見込まれる。労働条件については交番作成規程にのっとり作成を行なう。
3. 乗務線区見直しに伴い、JR東海における地上設備の改善・JR会社間協定の異なる取り扱い等に対応する貨物会社の体制を明確にすること。
【回答】会社間協定については、本社直轄事項である。
4. 現在の東海支社内各区所別運転士の需給、及び塩尻機関区運転士の要員需給の見通しを明らかにすること。
【回答】要員需給について、明らかにする考えはない。
5. 乗務線区見直しに伴い、嘱託社員(運転士)の労働条件の確保について明らかにすること。
【回答】嘱託契約に基づいた労働条件の確保は行なう。従来通りで考えている。配慮はする。
6. 乗務線区見直しに伴い、ハンドル訓練期間を2010年9月末までとした理由を明確にすること。
【回答】訓練期間を一人9日として計画した。ただし、訓練日が重複する期間及び祝日等を勘案し、2010年9月末としたものである。
7. ハンドル訓練中、B31、B32、B33の各行路の労働時間を明らかにすること。
【回答】B31は9時間44分、B32は16時間10分、B33は18時間15分である。

※交渉終了後会社側より「提示行路は出勤時間が間違っていたとして、B31は10時間55分、B32は16時間10分との回答。

世界の人々がみんな仲良くなるように！ 「アジア・アフリカ支援米、国際協力田米合同発送式」

アジア・アフリカ支援米、国際協力田米合同発送式が1月13日行われた。雪の降る寒いなかでの発送式となったが、JA長野県ビロロ農会議に結集する単組代表、JA長野中央会、長野県生活協同組合連合会の皆さんが集まり、国際協力田で収穫された米や、各地区で集められたカンパ米など約10トンがアフリカのマリ共和国に向けて発送された。式では、主催者を代表して、県労



農会議(山口わか子議長)、JA長野中央会(矢澤利夫専務)、県生協連(小松由人専務代行)があいさつした。

国際協力田で田植えや稲刈りを経験した幼稚園児や小学生からのマリ共和国に宛てた「心をこめて作りました。お役に立てれば幸いです」などの作文・メッセージが披露された。また、マジランド・アカデミー・インターナショナルからの御礼のメッセージが披露された。

最後に、参加した一人ひとりが「世界の人々がみんな仲良くなるように」「このお米が役に立ちますよう」などの言葉を援助米の入った袋に書き込み、皆でトラックへの積み込みを行い、発送を見送った。



山口わか子県労農会議議長

◆退職の際は、鉄道退職者の会への加入を！
◎鉄道退職者の会 長野地方連合会
電話 026-226-6658

◆交運共済からのお知らせ◆
マイカー共済の新規加入を！
◎全国交運共済生協 長野事業部
電話 026-291-5057 JR:067-2583

費者が連携して休耕田などを活用してお米を作り、飢餓に苦しむ国に送る「国際協力田運動」を取り組み、今年、18のJAで取り組まれた、6935kgが収穫された。